

# 兎めた幼稚園史料編集部

今までにこの「幼児の教育」に時々昔の幼稚園とか或は思い出とかいう記事を掲載した。これは日々の保育にすぐにやくにたつというものではなくて、何か新鮮味のかけたような懐みが無いでもないが、読んで見て内容をよく知るとなかなかかどうして、得るところが大きい。これらの記事にあらわれている保育の内容の一々や、此の理解の度合い、親達の考へ方、又はそれぞの風俗等が詳細にかいてあってこれを現在の実状に合せてみるとそこに発達の段階がありありと知られる。そして今全国の幼稚園関係者が必死になって勉強し実行し、努力し工夫していることが五年先年、五十年百年にかけてよりよく活かされて日本の幼児教育のますます輝しくなってゆく将来を思う時、やはりふりかえりみた現在過去の保育状態の記録は共に大きな意義が生れてくるということを深く感じた。

これからここに掲載する記録はみんな歴史の古い幼稚園の史料である。日本幼稚園協会がかねがね集めておきたいと思つていたが、創設以来八十周年にもなるこの機会に各地方関

係者にお願いの手紙を上げたところみんな喜んでお返事を下さった次第、こちらとしてもこれで手がかりを得れば又段々手繕つてもみたいというわけで、年代もとびとび、内容も一貫しているとはいえないが、これら生きた史料は日を逐うて貴いものに価値づけられることはたしかであろう。

これらを読んでいると、わが経験を通して自分の心の中で一まず歴史に綴られてくる。それを諒とせられたら幸いと思つて、ここに集めた中から年代順に並べ寸筆を加へ掲載した。

明治十二年頃

## 第一回幼稚園卒業生の思い出

岡積利兵衛

私は明治十二年七月鹿児島に初めてできた鹿児島女子師範学校附

属幼稚園の卒業生です。その時の入園許可証と入園料金五十銭の書類をそれから進んだ学校の証書と一緒に保存して居ます。

私は明治八年秋に生れてかゞへ年八十二才になります。

……中略……

幼稚園時代の思い出はまだ昨日の様にまばらながら目前にちらついて来ます。

何十人であったか確かなことは覚えませんが後に大臣になつた渡辺千冬氏も同窓の一人です。千冬氏のお父さん（千秋）は当時大書官で来られ第三代の知事でした。

明治十年役が終つて日の浅い時ですから封建制の強い頃で士族平民の差別が厳しく、町内が異つて居てさえも喧嘩（けんか）あつて居ました。

他県からきた上役人の子弟が数人加わつて當時二、三万しか居なかつた市民の内から限られた家庭の子息の集りであつたのです。

私の家は父が明治八年から度量衡製作業をはじめて居まして県下唯一の製作所でした。県庁や地方人ととの出入が頻繁であつた勢もあって、種々な勢力の集合地帯であったようです。私の友達も家にはそれぞれの型（けい）なりに集りました。他県人をヨソモンとみくびつたり、地方人を田舎者（いなかじやう）とけなしたり、町人を「マツニン」とみさげたりした環境から無風地帯におかれ居まして至極なぞやかであります。

幼稚園でも私共の仲間はおとなしいものばかりでした。先生は今も同じ様に女の先生でしたがその一人に農園先生と云う年とつた方がありまして東京から来て居られました。しばらくしてやめられましたが汽車の無い時でずから海路汽船でゆかれました。

船が沖合に泊つて居ますので船（ふな）が通いました。私共園児は父兄と

海岸通りの船問屋の二階から御見送りしました。

幼稚園では授業の初めと終りには拍子木（長方形に木を削り二個相打ちてならすもの）が鳴ります。カチカチ鳴ると集りカチカチ鳴るとおわります。其度に園児は一緒に出這入りました。先生が先頭にたつて私共の方を向いて手をたたきながら列を組んで先生の手拍子に揃（そろ）へて歩きました。

唱歌を教わる時は楽器はなく先生が手拍を打つて歌を唄つて下さいますと知らず知らずおぼえました。

今幼稚園で歌われて居る歌があると思ひますが、

ひらいたひらいた蓮華の花開いた……

ここなる門は誰の門……

雀雀おやどはどこかチュチュチュ……

風車風のまにまにめぐるなり……

桃から生れた桃太郎……

等おぞわりました。

園庭で遊戯もしました。まるく輪をつくつて、しゃがんだり、たつたり一人の先生が、眞中に居て他の先生が園児の間に居て唄いながら手足をおどらして居ました。

手工は紙細工、豆細工、粘土細工等がありました。

その頃は遠足や運動会はありませんでした。先生は皆和服でした。私共は和服で幼稚園と太い焼印がおされた小さい木札に名前が書いてあるものを帶に結びつけて居ました。

……後略……

〔説明〕八十二才の岡積さんが、幼児のころ船で旅立ちの先生を船問屋の二階から見送つたことが書いてある。これは豊田英雄先生と思う。お茶の水幼稚園を創設されてから明治十二年鹿児島県会の嘱により同地に赴きここに幼稚園を創設し完了の上、再び東京に帰任されたのであるからそのお別れの情景が、はからずも思い出に強くのこつたらしい。

明治十八年頃より二十年頃

\* \* \*

## 大分県杵築幼稚園のこと

河合多留

明治二十二、三年頃

(大分県杵築市)

……以下略……

\*

\*

\*

## 幼稚園保母の免許状

海老名モト

……前略……

四十余才の母は若き方々と共に近藤幼稚園保母練習所に通い居りました。

明治廿五年九月付にて

証

杵築幼稚園は本年七十周年と相成り(明治十八年創設)先年六十年記念式を催し私も御案内をうけ園長より何か懐旧談をいう御依頼をうけ昔開園の時御家老末亡人と保母に御就任を願い河合精一郎よりそれはそれは御立腹いやしい町の子の守をなどと御叱りをうけ珍話や此外昔の微々たる保育の模様等を御話し申し来会者御一同大笑いされども県下一歴史は古く候。

明治廿八年に始めて唱歌と名のつく歌を幼児に教え度、町長に幾度も幾度も願いようようベビーオルガン一台備へつけて幸い私は音楽が速も好にてバイオリンとハンドオルガン(只今のアコーデオンによく似た小さい楽器です)此二品を幼稚園に持ち行き幼稚園唱歌集を求めて日々遊戲や歌を教へ候又恩物はほんの僅かに購入下さる

幼稚園保母練習科卒業

海老名隣子

を頂き國にては

福島県管内にて幼稚園保母たる免許す

福島県知事 日下義雄

……以下略……

(山口県萩市平安古廻ノ口)

〔説明〕 靈南坂教会の近くに開かれた赤坂幼稚園より筆者の母上は麻布幼稚園を受け継がれた。この人の保育を学ばれた近藤保母練習所長近藤浜さんは、松野クララ、豊田英雄両先生方と幼稚園の創設に当られた一人である。保母養成機関の稀であった時代海老名さんは正規の保育学を学ばれた。その後会津若松幼稚園も創められ、母子二代幼稚園教育に尽された功績は大きい。

明治二十二、三年頃

\* \* \*

## 愛珠幼稚園が保母の実習所

芹沢イノ

……中略……

……深處に専門の先生より造花等も教わりました。一年半、明治廿三年に始り廿五年に終り卒業式の時は服装は皆高島田に髪を結い

私は元大分県速見郡杵築町士族阿部正利三女以納として、生れは明治四年十月六日でした。十九の年に結婚、大阪に出で主人は警

……前略……

すそ模様の晴衣を着て写真を撮りました。卒業後はそれぞれ市内幼稚園に配布されました。其時の月俸は大七円と小六円でした。私と吉田さんと二人は市の西区鞆町(魚市場の町)小学校附属幼稚園でありました。其時の校長先生は絃楽の(琴、月琴、丁琴等)を好きな方にて佐治春寛と言う方でした。私と吉田さんは校長の前に机を

近藤幼稚園保母練習所長 近藤浜印

察、私は其当時市参事会の主催にて保母養成所が出来、中の島第一

高女の附属として場所は東区今橋三丁目元鴻の池の古家に愛珠幼稚園があり、そこの二階が広く教室にあてられ、開所式は明治廿三年四月一日より、廿才の春第一期生として入所、廿名位なりしと思います。課目は教育、博物、音楽、倫理保育法等がありました。主任

先生は東京高師より春田隆子先生、保育法音樂手技のお受持、橋本先生で、二年間の予定が一年半に縮められ、春田隆子先生は廿八年の方でしたが其御親切なる温顔は今も心に残って居ります。其

時の服装は丸まげに帶、私共生徒は皆一いちょうがへしのかみと和服、冬は一寸すそふき四尺角の毛布を二つに折り、こぶまき的に肩から身に巻き寒さをよけるものでした。実習所は手許の愛珠幼稚園でしたが幼児も皆和服長袖輪に、民草等踊る時はとてもきれいに感じました。樂器はピアノ大形長三角形にて三本足に車つきオルガンは養成所にあり、交たいで練習するものでした。私共は市費で育てられ市内二三年の義務があり、それをすませて思い思いの所に行くものでした。

置かれて居りました事を覚えて居ます。組は二組、保母は二人、助手保母一人、皆で三人。大阪は昼は御飯たきがあり、幼児はあつき湯気の立つ御飯にお魚のおかず等、女中の持ち来りて……

……以下略……

(鹿児島市上荒田町二一七四)

〔説明〕 大阪において郡の保母養成所に入り、つづいて幼児教育に従事したことが当時の風俗もうかがわえて面白い。

明治二十八年頃

## 神戸善隣幼稚園のこと

青木松

明治三十年頃

## 番町幼稚園・城東幼稚園など

脇屋なを

明治二十八年、今から六十二年も前です。神戸の様な時代の先端を行く都市でさへ託児所とか保育所と云う様なものはなく幼稚園と名づけられるものは二つか三つかなかなかった程度です。比較的文化施設の少ない東部神戸に可成広い日本家屋を借り幼児教育にそしてそ

れにつれて愛の教へをと計画したのが今は亡き宣教師R・A・タムソン夫人でした。何しろ外国人夫人の園長保母二人に伝導師同行四人の苦難の道が始まりました。名も善隣幼稚園として。

「子取り」で騒がれていた當時の事です。まして六十年前ですもの

今までこそ笑い話の種ともなりましようが當時としては募集に説得され努めたものです。

曰く「異人さんが子供をさらう」やさしくすればする程気味悪がって、尚警戒すると言う時代ですから並大抵の苦労ではありませんでした。万全を期して子守がお供でついて来ると云う始末、こちらも考へて将を得んと思へば先ず附馬をとばかりにこれら恵まれない子守達に読書、裁縫等教へ始めました。

不思議でも奇蹟でもなく誠意と云うものは有難いもの、日ならずして幼児は幼児、子守は子守の部屋で結構それぞれ興味と知識に満足していたものです。

(神戸市長田区大丸町三ノ一一四)

明治廿四年の幼稚園はお土産と申まして毎日手技を作らせました保母は幼児帰宅後下準備にせはしく例へば剪紙を貼らせる為前日につや紙の裏にアラビヤ糊の引いてあります十せんち位の紙を三角形に握み保母が鉛筆で線を引いて与へますと子供が鉄で切り取り手本通りに貼ります。

明治廿四年頃の幼稚園はお土産と申まして毎日手技を作らせました保母は幼児帰宅後下準備にせはしく例へば剪紙を貼らせる為前日につや紙の裏にアラビヤ糊の引いてあります十せんち位の紙を三角形に握み保母が鉛筆で線を引いて与へますと子供が鉄で切り取り手本

豆細工の時保母が泣かされます。豆の瀆方が悪いと崩れましてあ  
ちらで、こわれましたと申し困った事が有りました。

其後お土産も毎日ではなく一週に一度位になりました。

私の知つております一番古い唱歌

我子よかれと父母は寝ても覚めても祈るなり

善き子になりて人の子は親の心をやすめばや

毎日朝会集がありまして歌つたものです。

土地柄富裕の家庭が多く使用人多きため子供の独立心が乏しいと  
園長の意見で入園後一週間添人を許可致しました中には難物もありま  
した一人でも離れる子供が有りますと保母は飛び立つ様に嬉しく他園の方  
が能く離れますねと申されますが保母も一生懸命努力いたしました。

幼稚園の発達も時勢に伴い追々発展日本橋区に置きましては大正

三年独立経営の幼稚園設立専任園長就任されました独立幼稚園は東京  
市では最初でした。

大正十二年関東大震災の時園舎は焼失恩物もなく日々を過ごして  
おりました折柄大阪より数々の送り物中に大きな積木長さ九十セン  
チ巾八せんち三角四角其他沢山御恵与下さいました。幼児等は大喜  
び保母一同は有難く感謝致しました。

大正十四年、出張費が出る様になりました。近県保育視察をさせ  
ていただきました。静岡迄参りました。区内で二名これも区として  
は初めてです。

昭和二年園長ノ發言で春秋遠足の外自動車を利用、全幼児は二組  
に別けましたり或時は一組丈を連れて参りました。現在の様に交通

頗ばんで有りませんでしたから外出して自然物に接し又空気の良き所で自由に遊ぶ事が出来ました引率者は責任が有りまして帰園致しますとほっと胸をなれます。場所は小石川植物園、上野動物園、浜松町恩賜公園、日比谷公園等でした。

日本橋区の幼児は環境上土に親しむ機会がありませんからせめて鉢にでも草花を育てたいと思い各児に一鉢づつ名札をさし成長の早い鳳仙花を植へさせました。苗は保母が作り子供等に交対に水を与へさせ一鉢でも花が咲きますと楽しみに毎日自分の眺め楽しんで居ります。大抵毎年続いて実行いたしました。

幼稚園も大いに進歩致して参りました。区内丈の主任会は毎週一回会合し研究致しました。

委員会は各園一名で話方遊戯唱歌手技等分担して研究しました。

……以下略……

(東京都品川区荏原四ノ一七五)

明治三十四年頃より昭和初期まで

## 高浜きみの

(本誌五十五卷七月号掲載「昔のこと」)

\* \* \* \*

明治三十六年頃

## 大石雪枝

(本誌五十五卷六月号掲載「想い出」)

\* \* \* \*

## 平戸幼稚園の開園当時を偲びて

千浦治子

……前略……

元来私は保育教育をうけたものでもありませんが平戸婦人会で幼稚園を設立希望があるので畠ちがいの私に白羽の矢が立ちまして今考へますればよくも御引受けいたしたものと思います。若き日の無鉄砲と申しましようか早速長崎師範の附属幼稚園における古に参りました。明治三十八年六月六日より七月十五日迄同園主任杉野香久代先生に幼稚保育法の御教授をうけまして速成保育ができたわけです。第一オルガンのけい古もしなければなりませんでした。誠に急ごしらへの主任保母毎日の様に小学校の或先生の御宅にオルガンの勉強に参りましてやつとどうやらひけるようになりました。誠に急ごしらへの主任保母ができたので御座います。

八月某日から開園いたしましたところ百二十人の幼児が入園致しました助手の古莊さんが小さい組を、私が大きな組をうけもち保育の任に当りました。外におはあさんの方が一人世話役、其れに小使のおばさんと計四人で世話を致しました。ボロボロの借家でガラス戸もありません風は吹き通してまるで修練道場のような処へ百二十人もどっとおしゃせてきたような始末でそれこそ途方にくれる状態でした。

た。時々婦人会の方や小学校の先生方が御越し下さいまして御鞭撻して下さいました。下手なオルガンをひいて師範で習って来た様に一所懸命に話したり教へたりもいたしました。寒くなりますと手がかじかみ、しかし火鉢があつたかなかつたか覚へません。とにかく皆腰かけさせて先ず手をこすらせます。そして積木だハリガミだ何だ彼だいろいろの事をさせるのです。休みの時間になると大きい男の子等は角力をとります。制したって仕方がありません傍観していました。

数人は中途で止めました。おしつこをしたのがはずかしいとやめた女の子。武士の子が町人の子と遊ぶのはいやだとやめた男の子もありました。実に封建的な土地柄です。そんな時代でもありました。先生は袴をはいて靴をはき子供らは勿論和服です。写真がないのが残念ですが十人計りの男の子は毎朝私の出勤の出迎へに一丁余りの橋の側迄ランバをふいてまいります。とても可愛いものでした時々遠足につれてまいります小さな町ですが日本最初の外国貿易地オランダ商館イギリス商館などがありましたところ昔は戸数千軒といわれた町で入江にそつて商家が立並んでいます。其所を一巡ります時一番幼い子供は自分の家の前を通りますとお母さんにすがりついてお乳をのんだりしていました姿が目の前にうかんでまいります。卒業式の時など私も感心しました事ですが一人の子供は飛出して来ましてすがりついて泣きました。今は町の為にと東奔西走いたして居ります。実に無秩序なノンビリしたものではありますが幼児の心には深く、深く深いこんだらしいので、私がやめまして他にまわり五年後に帰りました時には十人計りも年賀にまいりました。

其うちの数人は四十年後にも尚わすれずに愛のもてなしをもしてくれました。五十年後の今日も尚覚えて数日前懇々静岡から訪ねて來た五十八才の老紳士もあります。爾来春風秋雨五十年今や平戸幼稚園は伊藤先生の御奉仕で見事に成立一度參觀に参りましたが見事にととのつた幼稚園となりました。誠に有難いことだと感謝いたして居ります。

昔物語り夢物語り御笑草迄に認めました。

(東京都杉並区阿佐ヶ谷五ノ六一)

## お茶の水と私

明治四十四年四月武田錦子先生に連れられて、附属幼稚園へ、時の主事は藤井利謙先生、私は福建省の女子師範保母科を、受持つ必要上、いろいろ便宜を計って頂いた。

翌四十五年九月から、お茶の水の職員の末席に連った。主事は安

井哲子先生、他に雨森訓子先生、井村くに、池田豊、岡部屋世の諸先生、始めに池田先生の三の組の助手、翌年から大正五年迄、第二部の方につとめました。其間井村さんの代りに、伊藤梅さん、岡部さんの代りに、相馬さん、雨森先生の代りに樹下さん、樹下さんの代りに、杉本さん(現園長及川ふみ氏)私の代りに小高さん、其時代でした。

初めの六年時代は、私の長い生涯の中での最もうるわしい時代でした。

庶務係に井村さんと安井先生、園芸係に池田岡部の二人、この二人は鍋島農園へ実習を行つて蔓バラの苗を貰つて来て、園の花壇の周囲に植えたら、翌年には見事に薄桃色の八重、白の八重、一重の縁取りなど咲いた。やがてそれを切つて、大きな盛り花として遊嬉

## 明治四十五年頃

## 竹居ふじ

居ります。

昔物語り夢物語り御笑草迄に認めました。

(東京都杉並区阿佐ヶ谷五ノ六一)

\* \* \*

明治四十年頃

## 佐藤満寿

(本誌五十五卷五月号掲載「在学中の思い出」)

明治四十三年頃

## 水間クマ

(本誌五十五卷六月号掲載「その頃のこと」)

室に飾り、皆で楽しい集会をして、帰る時分けて頂いたが又蚕豆を作つて皆して試食したりした。私と雨森先生とは雑誌「婦人と子ども」の会計係をしたので、雑誌の発送やら入金の記帳などで、全国の園名、保母名も覚えた。何しろ、北隆館から雑誌が来る迄に包装紙をかく、包む局へ料金代金納で持つて行く、中々忙しい、其他此幼稚園には、実習科の生徒、諸国の参觀人、本校の教生が来るしフレーベル会の例会、大会等々で、いつも月を仰いで帰る。

お雛祭の時は、小使室で、おりいをいってお砂糖にころばしたり、紙箱を沢山作つて入れてやつたりした。

安井先生は、冬など職員室へ帰つて見ると皆のお弁当を、スチ

ムの鉄管の上へ並べておいて下さるし、或時は遠く家郷をはなれて居る私を可哀相だとて、お食事に呼んで下すつたり、今何を勉強して居るかと、心配して下さつたりした。雨森先生は女らしい氣のつく方で、私の脚気の時など、小豆と麦とを牛乳鍋で煮て、午後私にたべさせて下さつたり、おいしいお料理を半分ずつ分けて下さつたのを、今も涙して感謝して居る。何しろ雨森先生は小笠原家の家庭教師であり、御自分の甥姪の教育もあるのでいつもお忙しい、友人の芦花夫人の順天堂病院に入院中や、甥の晋さん、姪の楳子さんの入院から病死の頃など、私は三部の三才十五才迄混合の六十人を、一人で何とかやつた事など、今から思へば無謀も甚しいものであるが、一生懸命張り切つて居つたと思つ。

#### 保育の内容

保姆の日課、朝の拭掃除、お花の水かえ、幼児のエプロン代え、会集、各要目の何かをする。自由遊び、お片付、手洗い、食事、う

がい、自由遊、其間に先生食事、午後の集り、エプロン代え、二時お帰り、小使掃除、先生は記帳、実習生又は教生指導、明日の準備受持事項につき研究、要目中には観察、談話、遊戯、音楽、手杖手杖の中にはフレーベルの積木、環、貼り紙、剪紙、撃ぎ方、縫い方、書き方、折紙、摺紙、粘土、豆細工、等がありました。

木曜日が粘土で、高橋という小使が律氣者でねつて棒にして幾本かずつ組分けして、くれました。豆細工は金曜日で矢張高橋が用意しておいてくれるので、竹ひごと小皿にもつた豆とを与へると、飛行機だの、彌次郎兵衛など、よく作りました。

#### 其頃の幼稚園界

東に倉橋先生、西に橋橋浅太郎先生が指導して居られ、其他東京府立の日田推一先生、奈良の森川正雄先生等指導して居られました。保母養成所は、実習科と、府立と、長崎の活水、広島の済美、仙台の何とか位、其後ベラ、アルヴィンさんの玉成が出来たと覚えて居る。東京では府立出の園長さんや保母さんが多く、大阪や神戸には他の出身で、実力のある、徳の高い、園長さんや、保母さんが多く、物資も多くて、優秀な成績を挙げて居られました。

#### 其頃のフレーベル会

安井先生、野口幽香先生、倉橋先生等々主導的地位に居られ、小向さん、福田さん、山下さんの方の意見を呈して、例会の主題をきめ年に一回大会がありました。

講師には、中川謙二郎、小西行直の両先生が近族結婚について語された事があつて、両先生は極親しい中ではあつたが、中川先生の御家庭を知つて居る私共には、お氣の毒で、まともに顔が上らなか

つた事を覚えて居ります。

倉橋先生の心理学、菅原教三先生の美学、土川五郎先生の律動遊嬉、久留島武彦先生の談話、梁田貞先生の童謡、大島正徳先生の倫理、富士川游先生の精薄児について、永井潜先生の心理学等々でした。

其頃の誌上にはモンテッソリーの感覺教育がとり上げられ、フレーベルの象徴主義が、追われて、自發活動を尊重しようと大に呼ばれ、テストが盛んに行われ、京大の心理研究室あたりからも、いろいろ資料を呈されて幼児体位の標準等も追々と出来る機運に、向つて来、文部省の夏季講習会が年々あり大正四年八月三十五日迄女高師講堂で中川校長が議長となつて幼稚園関係者大会が開かれ、全国から優秀な保育関係者五六六名が集まつて、

## 一、文部省諸問案

### 1 保母養成の適當なる方法

### 2 幼稚園と小学校との連絡に関する適當なる方法

### 3 保母の資格を正教員と、補助保母の資格を準教員と同等ならんことを請う

2 小学校令施行規則第二〇六条の幼児数を三〇〇人以下とし、併に同第二〇七条の保母一人の保育する一組の定員を約二五人以下とし特別の事情あるも四人を超えるを得ず、但し定員三〇名以上なるときは補助保母一人をおくものと改正せられんことを請う（時期尚早で延期）

3 公立幼稚園長及保母には市町村立小学校正教員の受くる隠退料

及遺族扶助料並に年功加俸、住宅料、免許状共通等の特典を同様に授けられんことを請う

### 三、研究問題 第一、二、三

#### 1 満三才より始めるか四才から始めるかの適否

#### 2 幼稚園に於て児の身体発育に有効なる手段

#### 3 幼稚園各組に於ける各保育期に割り当つる手技手工の種類

其後私は大連幼児運動場に行き、関東大震災後は麴町富士見町尚候爵邸内で罹災者の子弟を集め保育し、現在自宅でささやかな、保育園を経営して居ります。

（山梨県東山梨郡牧丘町）

## 明治時代の幼稚園

### アームストロング

明治時代の大半の両親は、子供が幼稚園で半日の訓練を受けるよりも、子守の脊中に、くくりつけて家の中や町を歩かせる習慣を持っていた。そこで子守達の、一番好ましい集合地は駅であった。ここで子供の注意は激しい騒音と出たり入りする汽車に向けられる。高い下駄をはいて髪の毛をふり乱して、時には脊の子がそれを口に入れており、又、子供も子守も鼻をたらし、手を汚し、度々、

昆布や、あめをしゃぶっていた。

然し、確かに或る母親が言うように子守の給料はやすかつた。食料と着物丈位で朝から晩迄子供の面倒をみてくれる。幼稚園は半日ずつ週六日であるが、その外は母親の手をとること大変である。

こんな場合で、幼稚園を利用する理解ある母は少ないので、そんなお母さん方に母の会で違う、という事は非常なよろこびであった。もとより母の会も時には二人という事もあった。

こんな風で最初の幼稚園も畠の室で開いた。ミッショングから、本当の幼稚園の建物が贈られた時、テーブルと椅子がはいった時、園児達は大変嬉しそうであった。

初めて小さい椅子が運びこまれる時、園児の一人はあまりの期待に一晩中眠らず母親を起して最初の椅子運びを見たそうである。

第一にヘビーオルガンが備えられた。軽井沢の幼稚園大会で、旧い教師の一人が自分は、最初は畠の室にはさみと二三枚の古新聞じか教材がなかったと申されたがその通りである。子供達は着物を着ていて遊戯を教えるのは困難であった。幻燈は美しくなかった高い下駄をはいてるので幼稚園の行き帰りには度々ころんだものである。適当な下着類が定まつたのは大きな事だが後日である。

最初の月謝は月五十銭であった。

段々にあがって二円になった時、高いと言つて止めさせた親もあつた。或る汽車の客は、幼稚園では毎月二円ずつもとるから彼の西洋人、儲かる筈だと言つたそうであるが、現地の宣教師、仲々、支出が多いのである。

幼児に牛乳を与えるという事にも、非常に年数がかかった。

牛乳は赤ん坊や病人が飲むものと主張する。故に、冬は肺炎、夏のコレラ等で幼い生命が奪われた事は統計上、非常なものであった。

毎年学期初めに幼稚園の先生達は雨や雪の中を、家から家に園児を募集して歩いた。苦労な仕事であった。

開園の日にはいつも手いっぱいの子供等が与えられたが、幼稚園の前の入園の案内は入園式を超えてはるかに立ちつづいたものである。

(富山市総曲輪二七四)

〔説明〕 私達はたまには幼稚園がこんな時代を通ってきたのであるということを思つてみるのも必要ではあるまいか、もっともこれだけで明治時代の幼稚園を全部語つてあるというわけではない、すでに立派な幼稚園が全国に出来ていて、わが子が熱心な先生に保育されて幸福を感じる親達のあつたのを知つていい。然し一方にはたしかにこの記事の通りの事実が方々にあつたであろうということもうなづかれる。こうした有様に心を痛めいろいろの困難にうちかゝつて、よくわかるように親を導いてゆき追々と幼児教育を受けさせようという気持ちもつて行つたその時代々々の先生達の功績を思わずにはいられない。

現在のありさまを思つにつけても、この記事がなかなか意義の深い記録であることを思つて見直して読んで頂きたいと思うのである。

×  
×  
×